

報道関係各位

平成27年12月1日

我が国の小麦の品種改良に大きく貢献されていることが評価され 平成27年度農業技術功労者表彰受賞

1 受賞者

地方独立行政法人 北海道立総合研究機構

農業研究本部 十勝農業試験場 場長 柳沢 朗（やなぎさわ あきら） 57歳

2 受賞表彰名 平成27年度農業技術功労者表彰

3 表彰者

農林水産省及び公益社団法人農林水産・食品産業技術振興協会（JATAFF）

4 受賞理由

「きたほなみ」を始め、多くの小麦の優良品種を育成し、北海道産小麦の収量及び品質の向上に貢献するとともに、各種選抜法や育種材料の作出により、北海道のみならず我が国の小麦の品種改良に大きく貢献していることを高く評価された。

5 受賞発表日 平成27年11月27日（金） 農林水産省

*発表 HP:http://www.s.affrc.go.jp/docs/press/151127_1.htm

6 表彰日及び場所 平成27年12月18日（金） 三会堂ビル石垣記念ホール（東京都）

参考：小麦品種「きたほなみ」（平成18年北見農試育成）

国産小麦の主用途である麺用小麦の加工適性は、評価の高いオーストラリア産小麦銘柄「ASW」より劣ると認識される状態が長らく続いてきたが、「きたほなみ」の優良な粉色、麺色及び製粉性は、国産小麦の評価を一変させ、実需者から高い評価を受けている。

*「農業技術功労者表彰」の概要

昭和19年度から実施されており、農業技術の研究若しくは普及指導又は農業経営関係の研究若しくは改善指導に顕著な功績があった者に対して、農林水産省農林水産技術会議会長賞を授与。

【受賞者連絡先】

地方独立行政法人 北海道立総合研究機構 農業研究本部 十勝農業試験場総務課 担当：八木
住所 北海道河西郡芽室町新生南9線2番地 電話：0155-62-2431

「きたほなみ」など主要小麦品種の育成と 穂発芽極難系統の作出

柳沢 朗 氏（57歳）

地方独立行政法人

北海道立総合研究機構

農業研究本部 十勝農業試験場 場長



1 業績の概要

背景

北海道における小麦は、畑作物の輪作作物として、また、水田転作作物として栽培され、その生産量は50～55万トンに達し、国産小麦の6割以上を占めている。しかしながら国産小麦の主用途である麺用小麦の加工適性は、評価の高いオーストラリア産小麦銘柄「ASW」より劣ると認識される状態が長らく続き、良質品種の開発が強く要望されていた。また、栽培時の問題として、雪腐病などの病害や収穫期に雨が連続すると発生する穂発芽の被害により、収量や品質が不安定となることが問題視されていた。このような背景から、加工適性、収量性及び耐病性、障害耐性に優れ、栽培しやすい良質な品種の早期作出が喫緊の課題であった。

研究内容・成果

北海道向け小麦品種の穂発芽耐性や各種病害抵抗性、加工適性並びに収量性の改良を行い、従来の品種に比べ生産性、品質が改良された麺用小麦品種「ホクシン」、「きたほなみ」などの8品種を育成した。これら品種の普及により、北海道産小麦の収量と品質並びにそれらの安定性は大幅に改善された。特に「きたほなみ」の優良な粉色、麺色及び製粉性は、国産小麦の評価を一変させ、実需者から高い評価を受けている。

迅速な品種育成のため、少量サンプルによる製粉性や粉色（麺色）等の品質評価法や従来より精度が良く、簡易な病害抵抗性や穂発芽耐性評価法の改良を行い、効率的な育種選抜のための評価体系を確立した。また、7日以上連続降雨条件下においても穂発芽しない系統（穂発芽性極難小麦系統）など有用な育種母本の作出を行った。



「きたほなみ」の主な加工適性（製粉性、製麺性）

項目/品種・銘柄	きたほなみ	ASW	農林61号
製粉性			
製粉歩留（%）	73.6	69.3	63.5
ミリングスコア	91.0	84.6	79.1
製麺性			
ゆでうどんの官能検査	75.7	75.8	70.0

「きたほなみ」の製粉性は、麺用小麦として外国産を含め最も高く、うどんなどの日本麺の加工適性は、評価の高い「ASW」に匹敵する。

備考：ミリングスコアとは、製粉歩留と小麦粉の灰分の値から良い粉がどのくらいとれるかを補正した指標で、高いほど良い。

普及状況

「きたほなみ」をはじめとした、育成した小麦の栽培面積は、北海道産小麦の77%、国産小麦の45%を占めている（平成26年現在）。「きたほなみ」は、全国の小麦品種育成機関において、加工適性等の向上に寄与できる育種素材として広く利用されている。

2 評価のポイント

「きたほなみ」をはじめ、多くの優良品種を育成し、北海道産小麦の収量及び品質の向上に貢献するとともに、各種選抜法や育種材料の作出により、北海道のみならず、我が国の小麦の品種改良に大きく貢献していることを高く評価した。